

1987-9

No. 228

【表紙】

染付柘榴文壺
近藤悠三
1957年作

・解説は30ページ

題字デザイン・桑山弥三郎

カット・林美紀子

もくじ

特集：映像文化(映画)

日本映画の現実と未来	熊井 啓	4
国際映画祭と日本映画	田山力哉	6
フィルムセンターの現状と将来について	丸尾 定	10

ぶんか プンカ

ヨーロッパを旅して(1) —英国の芸術・文化支援体制—	大崎 仁	12
--------------------------------	------	----

都道府県のページ

我が県の文化行政◎ 文化の香り高い地域文化の創造	群馬 県	15
特色ある博物館紹介◎ 生きた民俗資料館	三州 足助屋敷	18
都道府県月間行事予定	9月	20

文化行政質問箱⑧

文化財保護2	サーベルの登録はできるか?	21
--------	---------------	----

文化庁だより

報告/中国帰国者に対する日本語指導者研修会及び日本語指導研究協議会の開催	22
文化庁ニュース	
・昭和62年度芸術祭国際公演・第11回日本語まつり	23
アジア・太平洋うたとおどりの祭典	
・昭和62年度芸術祭国際公演	23
タイ古典舞踊劇「マノラ」鑑賞の夕べ	
・第二回国民文化祭・熊本の概要	24
展覧会紹介	
絵画1977—1987/イギリスのカリカチュア	27
若林 奮 展/日本の甲冑	28
能・狂言装束/日本の水墨画	29

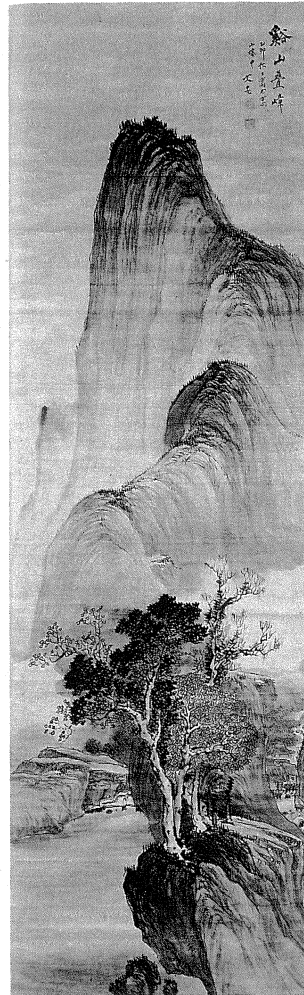
・文化庁行事報告及び予定	30
・国立劇場ニュース	31

■江戸絵画シリーズ

伊藤 若冲 (発売中)
谷 文晁 (発売中)
曾我 蕭白 (発売中)
岩佐 又兵衛 (発売中)
英 一蝶 (発売中)
冷泉為泰と復古天和絵 (発売中)
江戸の狩野派 (発売中)



伊藤 若冲
佐藤 康宏
定価、三〇〇円



谷 文晁
河野元昭
定価、三〇〇円

みちのくにを旅する若き文晁

福島大学 磯崎康彦

若冲の「群鶏図」に私自身の愉快な冒険を見出す
日本画家 下村良之介

伝統の枠から大きく羽ばたき、独自の絵画世界を構築した異端の画家、若冲。その執拗なまでの観察眼、研ぎ澄まされた視線、そして彼の描く濃密精彩な空間は、新しい時代の到来を思い起こさせる。

●既刊のご案内

時代別絵画シリーズ
飛鳥・奈良絵画 百橋明穂
平安絵画 有賀祥隆
鎌倉絵画 濱田 隆
室町絵画 金沢 弘
桃山絵画 武田恒夫
江戸絵画I(前期) 佐々木丞平
江戸絵画II(後期) 小林 忠
各定価、三〇〇円

ヨーロッパを旅して (1)

—英国の芸術・文化支援体制—



文化庁長官 大崎 仁

はじめに

わが国の文化振興のあり方をあれこれ考えているうちに、欧米諸国の実情、特に芸術と映像文化の振興への取り組みに、実地に触れて見たいという思いが強まっていた。そこでブリティッシュ・カウンシルのお誘いがあったのを好機として、イギリスを訪問し、帰途駐日E.C委員会代表部のおすそめを受けてブラスセルのE.C本部に立寄り、パリ経由で帰国することとした。こうして、六月六日、海外経験豊富な渡辺文化普及課長と二人で、五年ぶりのヨーロッパへと旅立ったわけである。ブリティッシュ・カウンシルの手厚い御配慮、イギリスの山崎大使、フランスの本野大使、ベルギーの加藤大使はじめ、各地の日本大使館の皆様、特に文部省から出向している、イギリスの村田、フランスの木曾両君の行届いた御支援、訪問先の諸機関の皆様の親切な御応対、さらには、市川文化企画官、森重専門職員はじめ文化庁の関係者の周到な事前準備のおかげで、各国への訪問は、きわめて充実したまた楽しいものとなった。

もとより、短期間の訪問でどこまで本当のところがかめたか疑問であるが、お世話になった皆様への感謝の意をこめて、現地での見聞の印象と記憶を訪問先でいただいた資料で補ないながら御報告することとした。

一 イギリスの文化政策

文化庁に相当するイギリスの中央官庁は、芸術・図書館庁 (Office of Arts and Libraries) である。芸術・図書館庁は、ダウニング10の首相官邸から遠くない落ち着いた建物の一角を占めている。

その建物に、芸術・図書館庁長官のワイルディング氏を訪ねる。白髪で比較的小柄なイギリス紳士である。

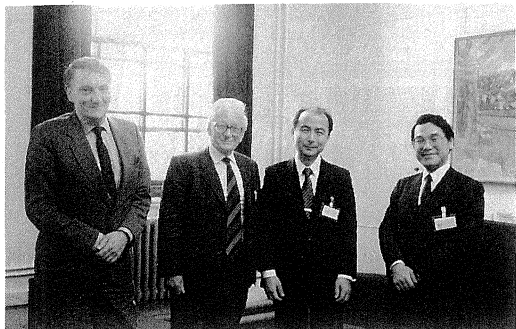
「イギリスの文化政策をうかがいたい。」と聞き出すと「文化政策というようなことは避けている。資金を配分しているだけだ。」という答えが返ってきた。話を進めるうちに、この答えの中に、イギリスの文化振興に対する考え方が集約されているという感じがしてきた。

第一に、文化振興に関する事業はほとんどすべて、特殊法人的な独立の機関にゆだねられているということである。具体的には、舞台芸術、美術、文学については、アーツ・カウンシル (Arts Council) が、工芸については、クラフツ・カウンシル (Crafts Council) が、映画については、ブリティッシュ・フィルム・インスティテュート (British Film Institute) が、それぞれ実際の振興事業の企画・実施に当たっており、それもわが国の特殊法人に比べて自主性がかなり強いようである。中立的な美術館、博物館、図書館もそれぞれ独立して運営されている。芸術・図書館庁の

役割は、これらの諸機関のために国の予算を確保し、補助金として配分することにあると

第二に、サッチャーさんの率いる現在の保守党政権は、文化の振興策については、後述べる民活路線は別として、新しい積極的施策を考えていないようだということである。ワイルディング長官の言を借りると予算の変化は「マージナルなものでしかない」、政策と言うほどの変化は想定されていないわけである。

第三に「文化政策」という言葉は、文化の方向付けという感じを伴い、必ずしもプラス



英国 芸術・図書館庁にて
ワイルディング長官 (中央)、ストーン次長 (左) とともに

のイメージを持っているとは言えないということである。後でブラスセルのE.C本部を訪問した時、話題に出したら、イギリス人の幹部職員は「文化」あるいは「文化政策」と聞くと、イギリスでは、ナチスを連想することがあると云っていた。そう言われてみると文化 (culture) という言葉は余り使われず大抵は芸術 (arts) でおしている感じである。こうしてみると、地味で、着実で、各専門分野や機関、団体の自主性を重んじるイギリスの特色が浮かび上がってくる。文化政策が政治の上で大きな比重を持ち、強力な文化通信省が国家主導で華やかに文化関係の諸施策を展開するフランスとは対照的である。

二 芸術・図書館庁の概要

芸術・図書館庁は確か文部省に相当する教育科学省に属していたはずだがと思ってしまうと、以前はそうであったが、大臣が教育に重点を置いて芸術文化に関心が薄くなりがちであるとの批判が出て、三年前にキャビネット・オフィスつまり日本の総理府にあたるところに所属を移したとのことである。ただし、大臣は専任ではなく、政府職員の人事関係の担当大臣を兼ねている。

関係機関、団体への補助金の配分のほかに、芸術・図書館庁の仕事としてワイルディング氏が挙げたのは、次の二つである。

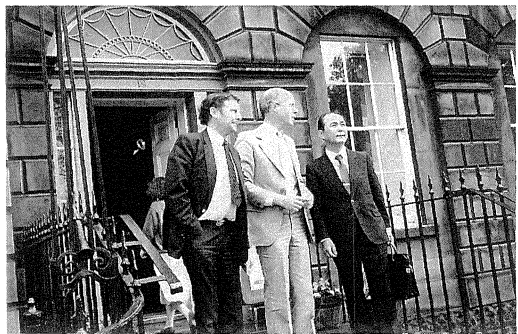
第一は、文化的遺産の保護である。各種の文化遺産を公共のために取得しようとする団

体を援助するため、全英文化遺産基金が設けられているが、芸術・図書館庁はこの基金に対して補助を行っている。ただし、古代の遺跡や歴史的建造物の保存は環境庁の責任である。基金に対する援助のほか、重要美術品の海外流出防止も芸術・図書館庁の仕事である。五十年以上イギリスにあって、一六、〇〇〇ポンド以上の値打のある美術品を海外に輸出する時には、通産省経由で、芸術・図書館庁の承認が必要らしくみになっている。重要なものについては、一定期間輸出をさしとめ、国内の美術館等にそれを購入するチャンスを与えることになっている。例の「ひまわり」もこのしくみの中で一時とめおかれたわけである。

第二は、民活促進である。一九八四年に、企業の芸術援助促進計画として打ち出されたこの新事業は、企業が芸術活動に新たな援助をする場合に芸術・図書館庁もその芸術活動に一定の補助をすることにより、企業の芸術援助活動を促進しようとするものである。順調に発展しているようで、ある意味では、サッチャー政権下での唯一の積極的芸術支援策とも言える。なお、本年から新たにスタートする新施策としてマーケティング計画がある。

これは、いかなれば、芸術・図書館庁が、芸術団体に代わって、需要調査や広報活動にのり出そうというもので、広い意味での民活路線の一環と見ることもできる。

芸術・図書館庁は、このような施策にも責



スコットランド芸術評議会事務所にて
メーソン事務局長（中央）、ピセット・ブリティッシュ
カウンシル・スコットランド事務所長（左）とともに

任を持つてはいるが、基本的には芸術と図書館のための資金配分機関であるというのが現状であろう。

おりからの選挙戦で各党の芸術振興策を報道しているガーディアンへの切りぬきを村田君が持ってきてくれた。それによると、自由党・社民党連合が芸術省、労働党が芸術・メディア省の創設をそれぞれ提唱している。その内容は大同小異で、基本は現在の芸術・図書館庁の仕事に、放送、出版、文化産業、余暇活動等に関することを加えて省としようとするものである。総選挙における保守党の勝利で、これらの構想がすぐに日の目を見るこ

とはなくなったが、芸術省の創設が真剣な議論の対象となっていることは、興味深い。

三 日英文化予算の比較

保守党政権が民活導入以外に芸術振興にあまり積極的とは見受けられないといっても、わが国に比べてその手厚さは見習うべきところが多い。

一九八六年の芸術・図書館庁の予算額は、約三億二、〇〇万ポンド、およそ七六八億円である。これを本年度の文化庁予算約三六四億円と単純に比較すると二倍強ということになる。しかし、より正確な比較をするために芸術・図書館関係の予算を除き、文化庁予算から芸術・図書館関係の予算を除去し、文化庁から芸術・図書館関係の予算を除去し、文化庁を除いて比較すると、二億五、八〇〇万ポンド、六一九億円対二一五億円で文化庁予算の約三倍弱となる。さらにスコットランド、ウェールズ、北アイルランドに対して、芸術・図書館関係で一〇〇万ポンド、二四〇億円が別に支出されていることを考慮に入れると、わが国に比して人口が半分強、国内総生産が半分弱のイギリスが、芸術・文化のためにわが国の四倍近い予算を投じていることになる。

四 イギリスの芸術援助

イギリスの芸術援助の中心は何といつてもアーツ・カウンシルである。芸術・図書館庁

の予算の約五分の二は、アーツ・カウンシルに渡される。アーツ・カウンシルの会長サー・ウィリアムはかつてタイムズの編集に当たったこともある言論人で、重厚な感じの老紳士である。実際にアーツ・カウンシルを切りまわしている事務局長のリトナー氏は若々しい活動的な人で、前述のガーディアンにも芸術大臣と労働党の芸術担当議員の写真にはさまれて大きく写真が出ており、労働党はリトナー氏の助言に従ったが、芸術大臣はリトナー氏の望みを企業からの援助に釘づけにしていると言っていた。

アーツ・カウンシルの予算はこのところ実質的には横ばいのようなものであるが、最近、芸術の普及面に重点を置いているため、ロンドンを中心に活動している伝統あるオーケストラや劇団に以前ほど援助の手がまわらず、一部で深刻な状況も出ているようである。

アーツ・カウンシルの補助対象は、一、二〇〇以上にも及んでいるが、さらに、十五のリージョンナル・アーツ・カウンシル、スコットランドとウェールズのアーツ・カウンシルにもアーツ・カウンシルから資金が渡され、地方公共団体との協力も含めて、全国的なネットワークが形成されているようである。



我が県の文化行政

文化の香り高い地域文化の創造

群馬県 社会教育課芸術文化振興室

古代東国文化の発祥地といわれる本県は、全国に誇れる数多くの古墳群や優れた文化財が存在し、また、近代日本の黎明期にも、教育や芸術文化の各分野などで、その先駆けとなった輝かしい歴史があります。

本県ではこうした歴史的、文化的背景を踏まえ「群馬ルネッサンス」ともいうべき文化の高揚をめざして、昭和五十六年に「文化県群馬」の宣言を県議会で決議しました。現在、県ではこの文化県宣言を文化行政施策のよりどころとして、文化の香り高い、ゆとりのある「心の行政」を強力に推進しています。ふれあい、躍動、調和をめざして設定された県計画「躍進ぐんま計画」では、本県の文化行政施策を、①文化環境、②芸術文化、③文化財の三つの体系でとらえています。本稿では芸術文化の施策の中から特色のあるものを紹介したいと思います。

教育文化事業団の育成

― 少年文化祭 ―

本県の芸術文化行政を語るには、まず、財



少年文化祭スナップ
伝統芸能（太鼓）を演ずる少年たち（前橋市民文化会館）

団法人「群馬県教育文化事業団」を紹介しなければならぬと思います。

県民の物から心の豊かさへの欲求の高まりに応じていくためには、行政と一体となって活動する民間団体の必要であり、県は昭和五十六年四月に、知事を会長とする「文化事業

団（昭和六十年六月から「教育文化事業団」と改称）を発足させました。

この事業団の発足により、これまで県の行政で担当していた県展をはじめとする各種芸術部門の祭典である「県民芸術祭」―国民文化祭に相当する県の芸術祭―の事業を中心に各種芸術文化事業を実施しており、県民の見る文化から参加する文化への欲求に幅広く応えてきているものです。昭和六十一年度の県民芸術祭の実績をみると、美術、音楽、舞踊演劇、映画、芸能、文芸の七部門で六十五種目、百十八公演が行われ、県民の三人に一人、六十五万人が参加しています。

この教育文化事業団の自主事業として、昭和五十九年度から企画実施されているのが、「少年文化祭」です。個性豊かで創造性のある上州文化のほりおこしを、二十一世紀を担う少年たちとともに進めようと企画されたもので、県内の各地域に伝承保存されている郷土芸能を中心とした子どもたちの明るく力強い祭典となっており、関係者から拍手が送られているものです。四回目を迎えた今年も、自然の宝庫尾瀬の玄関口である沼田市に広域圏立で設立された「利根沼田文化会館」で、夏休み中の八月二十三日（日）に実施されました。

鑑賞機会の提供と参加の促進

― 外国少年少女音楽公演 ―

芸術文化振興室では、美術館、博物館、自

文化庁行事報告及び予定

7月文化庁行事報告

- 7日 銃砲刀剣類の登録に関する連絡協議会（於：国立教育会館）
- 16日 文化財保護審議会
- 23日 国語審議会総会（第三回）（於：東海大学校友会館）

9月文化庁行事予定

- 3日 昭和62年度文化財建造物修理主任技術者講習会（於：国立教育会館）10日まで
- 8日 文化振興会議（中部地区）（於：奈良県）9日まで
- 10日 文化振興会議（西部地区）（於：鹿児島県）11日まで
- 16日 西日本地区国語問題研究協議会（於：松山市）11日まで
- 17日 都道府県宗教法人事務担当職員研修会（於：国立教育会館）17日まで
- 18日 東日本地区国語問題研究協議会（於：弘前市）18日まで
- 18日 文化財保護審議会
- 24日 文化振興会議（東部地区）（於：千葉県）25日まで
- 24日 芸術祭（国際公演）（東京公演）（於：国立劇場）26日まで
- 29日 芸術祭（国際公演）（奈良公演）（於：奈良市）

文化庁月報では読者の声を募集しております。音楽・美術・その他の芸術について、あるいは歌舞伎等の伝統芸能や美術工芸など広く、文化に関する率直な御意見を寄せてください。また、本誌や文化庁広報テレビ番組「美をもとめ」についての御意見・御感想をお待ちしております。

〒104東京都中央区銀座7の4の12
 附きようせい「文化庁月報」編集係
 電話 03(571)2126

国立劇場 ニュース

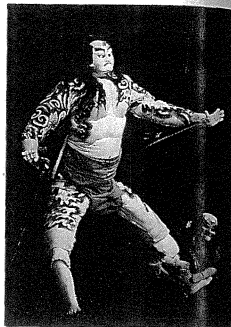
◆九月文楽公演（小劇場）

- 第一部（十二時）
競伊勢物語・夏祭浪花鑑
- 第二部（五時）
近江源氏先陣館・艶容女舞衣
景事 紅葉狩

9月12日（土）～27日（日）
 20日より昼夜狂言を入替
 初秋九月の文楽公演は一部・二部共に季節感溢れる大作・名作を揃えての上演です。

第一部はまず惟仁・惟喬両親王の位争いを題材とした「競伊勢物語」から、帝位相続に欠かせぬ神鏡探しと、春日の里人豆四郎・信夫夫婦が業平・井筒姫の身替りとして、信夫の奥の親・公卿紀有常に首を討たれる三段目「玉水洲」春日村」を、住大夫・燕三・玉男（紀有常）・文雀（小よし）ら適役を揃えて上演致します。統一は代表的な夏狂言「夏祭浪花鑑」釣船三姉内」（津大夫・団七）「長町裏」を、昨夏近づいた立役・荒物遣いの名手二世桐竹勘十郎一周忌追善として上演。遺児養太郎の団七と、築助の義平の珍らしい配役が興味深いところだ。

第二部は「近江源氏先陣館」八ツ目、「艶容女舞衣」酒屋、「紅葉狩」と名作が並びます。盛綱陣屋」は十九大夫・錦糸/伊達路大夫・喜左衛門、玉男（盛



綱・文雀（微妙）と芸賞に合った役どころで期待できます。越路大夫・清治（お園）の最高の顔ぶれでの「酒屋」は、しっとりとした上方情趣の中に、時代を超越した親子・夫婦の愛情を余す所なく描き出します。御期待下さい。

◆その他の公演（9月）

- ◆民俗芸能公演（大劇場）
 日本の太鼓
 上山藩鼓笛楽・大江戸助六太鼓 他
 4日・6時/5日・1時半
- ◆音楽公演（大劇場）
 委嘱初演「柳巷作曲」
 古典作品 抜頭 他
 29日・6時半
- ◆演芸（演芸場）
 上席 1日・10時
 中席 11日・20時
 東西落語二人会
 花形若手演芸会
 演芸を楽しむ会
 国立名人会
 26日・1時
- ◆能・楽（千駄ヶ谷能楽堂）

表紙解説



染付 柘榴文壺
 1957年作
 近藤悠三
 (1902～1985年)
 東京国立近代美術館蔵
 31.0×36.8cm

一幅の水墨画のような、白地に染付の藍一色で表わされた柘榴は、色彩の濃淡や筆跡がみられ、大胆な筆使いで一氣に描かれた様子うかがえる。また、きめの細かい白磁の肌は冷たくしっとりとした深みを持ち、染付の文様を際立たせて清澄で気品を感じさせる。

染付は素地に呉須（コバルト顔料）で文様を描き、その上に透明釉をかけたもので、多くは白地の器胎に用いられる。磁器の装飾方法としては基本的なものであるが、呉須に含まれる鉄、マンガンの不純物の種類、割合、焼成温度等によって黒っぽい色、紫がかった色、あざやかな藍色等いろいろに発色する。この技法が我が国に伝わったのは、磁器の製造と同じく文様・慶長の役の頃、朝鮮から渡来した陶工によってである。ところで、文様の柘榴であるが、果実は熟すと外皮が裂け、内にたくさんの種子がのぞく。このため子孫繁栄の象徴とされ、絵画をはじめ、中国や日本の磁器にもしばしば登場する。しかし、この文様はそれらを模倣したものではない。近藤悠三は、柘榴、葡萄、梅松等の植物、富士山をはじめとする山水等、自然を写生し、徹底的に描き込むことによって独自の文様を生み出した。壺、皿などの中に新しい絵画の文様の世界をつくり上げたのである。彼は京都に生まれ、京都を中心に活動を続けた陶芸家であり、富本憲吉らに師事、また日本各地の陶磁を研究した。染付を作陶の中心技法としていたが晩年は赤絵や金彩を大胆に用いた作品も制作した。

（文化庁伝統文化課文化財調査官 白石和巳）

編集後記

今月の特集は、近代の大衆娯楽の一つとして広く親しまれている映画を取り上げました。文化庁でも「映画芸術の振興に関する調査研究」を行っておりますが、映画振興を期し、総合芸術と言われる映画の過去と未来を専門の方々から語っていただきました。私も若いころは授業をさぼって映画館通いをしたもので、あの感激と興奮は青春のよき思い出となっており、映画に寄せる思いは少なからずです。

「ぶんかや」では、六月に英国等を訪問された大崎長官に、英国の芸術文化の支援体制について「一回目の報告」をいただきました。

九月の訪れとともに芸術の秋に向けて芸術・文化行事と美術館・博物館の特別展が開幕します。芸術を鑑賞し、各種行事に参加して、夏の疲れを癒してください。

(K)

広告の問合せ・申込み先

株式会社 きょうせい 営業課
 TEL(03)二六八二二四一(代表)

「文化庁月報」九月号

昭和62年9月25日印刷 発行
 編集 文化庁
 編集 株式会社 きょうせい

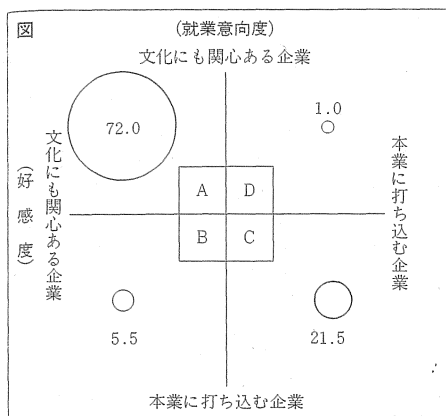
〒104東京都中央区銀座7丁目4番2号
 発行所 株式会社 きょうせい
 営業所 東京都新宿区西四丁目52番地
 電話(03)二六八二二四一(代表)
 編集部 東京 九一六・一六番
 印刷所 印刷政学会印刷部

年間購読料 二、一六〇円(送料四五百円)
 定価 一八〇円(送料四五百円)

ものにレンタルサービスがある。豊かな時代の象徴として、人々はモノを持つことよりも使って楽しむことの方へ、価値を見いだすようになってきた。時間をかけてお金を貯めてモノを一つ買うより、僅かなお金で使いたい時だけ借りた方が得だ、という考えが、レンタル商品を発展させてきたのである。レンタルのレコード・CD・ビデオテープなどはその業界を脅かすほどの成長を遂げている。未だにモノに固執している旧人類には、すぐに受け入れがたい動きであろう。

文化への熱いまなざし

生活文化のレベルでなく、より一般的な文化現象全体について、新人類はどのように考



えているのだろうか。最後に、その点について触れておこう。当研究所では、昨年、二十代と四十代の男女計四百人を対象に調査をしてみた。
まず、文化と企業及び自治体についてみてみよう(図参照)。これは①どちらに好感をもつか(好感度)、②どちらで働きたいか(就業意向度)を尋ねた結果である。一番多かったのは「好感度も就業意向度も文化志向」であるA派で七二％であった。つまり、四人に三人は文化重視型であるといえる。もちろん「好感度も就業意向度も本業志向」であるC派も二二％はいる。これに関しては、年代差はないが、男女差が若干ある。女性のほうが男性よりもA派が多く、C派が少ない。どちらかというと、文化は女性に好かれているのである。

次に、企業が文化に取り組む際に、「わかりやすく・一般性を重視する」べきか「先端性・前衛性に重点をおく」べきかについて質問した。二十代男性には前衛派が多く、三七％もいた。誰もが「いいんじゃない」と認めるものより、多少反発を買ってもインパクトのあるものに引かれるという傾向である。

自治体の文化対応については、二十代は「もっと取り組んでほしい」が六割弱、「現状で十分」が四割、「文化に取り組む必要がない」はわずか数％であった。

また、二十九の文化ジャンルについて、①「お金を払ってでも行きたい」、②「無料なら行き

たい」、③「無料でも行きたくない」の三通りの意見をきいてみた。①で一番多かったのは洋画で七七％。②ではパフォーマンスで六五％。これは有料なら一〇％しか行きたい人がいなかったことを考えると、興味深い。原宿の路上のパフォーマンス(無料)の影響だろうか。関心は高いが金を払う気にはならないようだ。そして③は民謡で八五％。同じ歌でも歌謡曲や演歌は引き合いがあるのに比べると、ちよつと寂しい数字だ。

最後に「文化」ということばから連想することを尋ねたところ、「芸術」や「歴史」、「伝統」といったような堅実なイメージ、ゆとりとか「平和」のように豊かな時代の落ち着いたイメージが上位を占めていた。

数字でみる限り、彼らは生活文化ばかりでなく、純粹文化といったものも、かなりの好意をもってとらえているようだ。新人類が消費文化の享受者(グルマン)としてばかりでなく、世界的な新しい文化の創造者として、立ち現れることができるかどうかは、今後の課題である。一見表面的ではあるが、美意識の高い新人類に、将来の日本文化の命運はかかっているのである。(博報堂生活総合研究所研究員)



ぶんか ブンカ

ヨーロッパを旅して(2) 映画振興策のことなど



文化庁長官 大崎 仁

今度の旅行の主な目的は、イギリスの芸術文化振興の体制や施策全般をたずねて、わが国の参考に使いたいということであったが、同時にこの機会に、数多くの優れた映画を生み出してきたイギリス・フランスが、映画の振興にどのような手を打っているかをできるだけ調べてみた。

一 フィルム・ハウスの館長さん

エジンバラで、ブリティッシュ・カウンシルのスコットランド諮問委員会の会長(アーサー王の騎士の末裔、キャメロン卿)の退任パーティに招かれたおり、エジンバラのフィルム・ハウスの館長さんに紹介された。かなりのお年とお見受けしたが、映画への愛情が身体一ぱいに詰まっている感じである。私が映画に興味を持っていると知るや、まず「グリアソンが死んだ」と悲しそうな顔をする。確かドキュメンタリー映画の指導者だと思っただが、記憶があやふやなので、確かな方を選んで「ポール・ローザも亡くなったと聞いたが」と言うと、「彼はもつと前に死んだ」とさらに沈みこんだ調子になる。話題を変えて「日

本では映画の観客が減って心配だ」と言う。「本当かい。ここでは映画観客は増えていてそんな心配は全くしていない。うちのフィルム・ハウスなどは、毎日人がつめかけている」と、とたんに調子が変わって胸をはる。そんな答はないかと半信半疑の顔をしてみせるが向こうはさらに動かない。

翌日、土曜に、旧知のキャシディ氏の家に招かれた時、夫人に尋ねてみると、以前は週末などに家族で近くの映画館に行く光景もよく見られたが、テレビの普及で一変し、映画館も急速になくなっていった。ただ、落ちるところまで落ちたので、最近少し上向きになっているようで、それが館長さんの強気の弁になったのではないかとのことであった。

後で資料を見ると、映画観客数は最盛期の四パーセントというひどい落ち込みようだった。(日本の場合は一三パーセントまで落ちた)しかし、一九八五年に、映画産業が政府の全面的な支援を得て展開した「英国映画年」の運動により観客数がその年三分の一も増加し、この傾向を進展させるために関係者が努力し

ているところということである。

二 国立映画館と地域映画館

イギリスの映画振興の中心は、何といてもブリティッシュ・フィルム・インスティテュート(以下、「BFI」と略称する。)である。

BFIは収入の六〇パーセントを政府の補助金に負っている特殊法人で、年間三十億円あまりの予算と四百五十人の職員で、フィルム・アーカイブの設置運営、実験的映画製作、出版活動等多面的な活動を展開しているが、特に注目されるのは芸術的、社会的に重要な映画の鑑賞の機会を確保するための諸活動である。

まずその中心となっているのが、国立映画劇場の設置運営である。国立映画劇場は、ロンドンのウォタール・ブリッジの下にあって、三つの映画館に書店、バー、レストランもある総合的映画センターであり、その目的は、古今東西の優秀映画の上映にある。また、一般観客には未知の新人監督の紹介にも力を入れていて、黒沢、市川、デ・シーカ、トリュフォー、ワイダ、ヴィスコンティなどの巨匠のイギリスでの最初の紹介者だったことを誇りにしている。

国立映画劇場の存在自体は以前から承知していたが、BFIの副局長ステイヴンソン氏に「このほかに、三十四の地域映画館がある」と聞かされた時は、一寸驚いた。よく聞いてみると、BFIが直接設置しているわけではなく、地方公共団体や地方芸術協会などと協力して設置・援助している非営利、独立の映



ナショナル・フィルム・シアターにて
(国立映画劇場)

画館である。前述のエジンバラ・フィルム・ハウスもその一つであった。このしくみは発展しつつあり、最近できたマンチェスター例では、そのために買取改造されたポルノ映画館の元のパトロン達が茫然自失するほどの成功を収めているそうである。

BFIはこれらの地域映画館をはじめ公共施設等に名画を提供するとともに各地の映画協会等の援助に努めており、文字どおりイギリスの映画文化を支えているとの感が深い。ただ、反面、ここまでしなければならぬ状況になったのかという思いも去来し複雑な気持である。

三 国立映画・テレビ学校

ロンドン郊外の古い絵にかいたような町、ビーコンズ・フィールドの一角に、国立映画・テレビ学校がある。この学校は、映画、テ

レビの制作に関するあらゆる創造的分野—製作、監督、編集、撮影、脚本、デザイン等—について専門的実践的教育訓練を行うため、十年程前に設立されたものである。特殊法人のかたちをとっていて、国と映画・テレビ産業が共同で必要経費を援助している。

御説明いただいた理事のハッサン氏も映画プロデューサーを本職としておられるが、教員のほとんどが現役の映画人であり、教育方法も映画の製作を実地に体験させながらの訓練に重点を置いていて、ほとんどマン・ツーマンの教育という印象を受けた。外国からの学生も積極的に受け入れており、日本からはフジテレビ関係が送ってくる学生を受け入れることになっているとのことであった。フランス、西ドイツ、アメリカ等少なからぬ国で類似の学校が活動し、国際組織も結成しているよう、わが国も考えなければと思う。卒業生は映画、テレビの双方で交流しながら活躍しているようである。

テレビと言えば、映画関係者と話をしているよく出てくるのが「チャンネル4」というテレビのことである。BBCとは別個の独立組織であるが公共性が強く、映画への援助や、実験映画のテレビ上映など映画の振興にも大きな役割を演じており、将来の映画とテレビの関係を暗示しているようにも思える。

四 フランスの映画振興策など

フランスの映画振興の中心は、国立映画センター(以下「CNC」と略称する。)である。

我が県の文化行政

ふるさとに根づく

活力ある文化の創造

高知県 教育委員会文化振興課

文化庁月報「都道府県のページ」の片隅に高知県の文化行政を紹介する機会を与えていただいたことや戸惑いを覚えず、改めて我が県の文化行政を見直すきっかけとなったことに何がしかの意義を認め大いに感謝しています。

南国土佐の大地は、さんさんと照り注ぐ白い陽光、眼前に広がる紺碧の海、そして豊かな山の緑に培われ、雄大な気質と情感を人々に育んできました。また、土佐の人情は、酒を汲み交わす風情のうちに最も豊潤な形をとって現れ、えも言われぬ土佐の訛と相まってこの上ない機微を奏するというデリカシーを秘めてもいます。

県民の文化を考える際には、こうした風土とこれから発する人情に深く思いを致し、文化の土壌をしっかりと見詰める必要があると思えます。

高知県は東に室戸岬、西に足摺岬と海岸線七百余キロに及ぶ扇形の山と海に広く囲まれ、かつては東西交通の難所がいくつもあつた土

地です。こうした地理的制約が歴史的にも高知市(人口の約四割を擁す。)を中核に、東西二眼レフの文化構造を生み出してきたといえます。このことは県民の文化活動の発表の場として不可欠な文化施設も、高知市とその周辺域に集中し(その収容数も必ずしも需要に応じられてはいません。)、郡部では大半が公民館などの施設を除き未整備の状態です。

拠点に花開く芸術とそれを支える

人々

四国の西南端、黒潮洗う景勝足摺岬、ジョン万次郎出生の地土佐清水市に文化庁の援助の下、文化会館ホールが完成したのは、五十九年五月のことです。文字通り西部地区の文化活動の発表の拠点となるべく、素人集団五人による船出でした。

しかし、その後、文化庁移動芸術祭の敷設ないステージとして、又、地元住民が企画、実施する市民劇場の場として、地区の文化活動の「拠点」といえる貴重な共有財産となつていきました。僻遠の地で、しかも多忙を極

これは、文化通信省直轄の国家機関であり、映画産業に対する援助も含めて国の内外にわたる映画の普及振興に当たっている強力な機関であり、映画庁とでもいふべき存在である。フランスの映画はCNCの強力な支援もあつて少なくとも量的にはそれほど落ち込みはみせないようである。レオタル文化大臣の訪日の際、日仏映画協力が話題になったので、その可能性について、CNCの所長さんと話しあつたが、双方のシステムが違いすぎるので、どう手掛りをつけるかなかなか難しい感じだ。イギリスでもそうであつたがフランスでも映画関係者に限らず会場の多くが黒沢監督の名前と作品を話題にした。改めて、黒沢監督の国際的名声の高さに感じるとともに、映画が国際交流に果す役割の大きさを痛感した。

パリで実質活用できた時間は帰国当日だけであつたが、CNCやシネマテークを訪問し、オルセーの美術館を垣間見たりなどして、今さらながらフランスの文化政策の厚みに圧倒される思いであつた。山野大使がフランスの外務省と文化通信省の幹部を招いて昼食会を催して下さつたので、席上フランスの文化通信省の強力さに敬意を表した。そのお返しというわけでもなからうが、レオタル大臣の訪日後、日本の無形文化財制度に学べということで、類似の制度導入のための法案を準備中であるという話がフランス側から出され、少しは肩身が広くなつた。

める中央の舞台芸術(団体)を住民の企画で招致し、公演を成功裡に終わらせることは並大抵のことではありません。そこで、次のような全館職員の間からその苦勞と喜びの一端を紹介します。

「劇団(中央の新劇)からの問い合わせへの返答に対して『土佐清水に行きましょう』と座長から直々の電話があつたのは公演の前年夏の終わりだった。旗幟を立てて……という座長の発想にとてもなぐさめられ、夢とロマンが秘められていて、文化会館の職員一同胸の高鳴りを抑えきれず色めき立ったのは言うまでもない。更に、当時郷土史の学習などユニークな活動を地道に続けていた「土佐清水文化を考える会(四十人)」が受入れの事務局担当として名乗りを上げてくれ、時には酒を汲み交わし夜更けまで官民一体の熱気溢れる準備のための議論を続けた。しかも「単なる良き受け手(協力者)としてでなく、やるくらいなら一座の座員になりきろう」、「幟を立てて並べて公演日を市民の祭にしよう」とまで熱気は高まる一方であつた。(同館長談)

こうした経験は、市民多数の芸術文化に対する潜在活力を生かすことの大切さ、地域住民のある種の文化的飢餓から生ずるといふ期待、熱情の強さを物語っていると言えないでしょうか。

また、同館の企画・運営面で陰の協力者となつたサークルの意義も黙視できないでしょう。

文化庁行事報告及び予定

8月文化庁行事報告

- 3日 著作権審議会第10小委員会（於：東海大学校友会館）
指定文化財展示取扱講習会（於：東京国立文化財研究所） 8日
まで
- 4日 全国高等学校総合文化祭（於：名古屋市中区） 7日まで
- 19日 昭和62年度中国帰国者に対する日本語指導者研修会（東日本地区）
（於：国立国語研究所） 20日まで
- 21日 昭和62年度中国帰国者に対する日本語指導者研修会（於：国立国語研究所）
- 26日 昭和62年度日本語教育機関連絡協議会（於：国立国語研究所）
昭和62年度図書館等職員著作権実務講習会（於：岡山大学） 28日
日まで
- 28日 昭和62年度中国帰国者に対する日本語指導者研修会（西日本地区）
（於：大阪外国語大学） 27日まで
- 昭和62年度中国帰国者に対する日本語指導者研修協議会（於：大阪外国語大学）
- 昭和62年度日本語教育機関連絡協議会（於：大阪外国語大学）

10月文化庁行事予定

- 1日 芸術祭祝典（能・狂言の夕べ）（於：国立劇場）
- 2日 第二回国民文化祭開会式（総合フェスティバル）（於：熊本市）
- 3日 第二回国民文化祭主催事業（演劇フェスティバルほか）（於：熊本市） 11日まで
- 11日 第二回国民文化祭閉会式（ランドフィナーレ）（於：熊本市）
- 16日 国立美術館所蔵内外美術名品展「浜口陽三展」（於：弘前市）
11月1日まで
- 30日 包括宗教法人等管理者研究協議会（於：京都市）
文化財保護審議会

国立劇場 ニュース

◆十月歌舞伎公演

菅 専助Ⅱ作
撰州合邦辻

片岡仁左衛門Ⅱ指導
紙子仕立両面鑑 二幕

10月4日（日）28日（水）

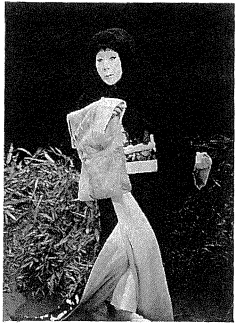
十月歌舞伎公演は、錦秋にふさわしい色とり豊かな舞台と、香気溢れる至芸とをじっくりと堪能し、心ゆくまで味わっていただける二本の演目をお楽しみください。中村歌右衛門・片岡仁左衛門という二人の人間国宝を中心とした多彩な顔顔を揃え、古典歌舞伎の醍醐味を存分に楽しめる公演になるものと期待されます。

《撰州合邦辻》

この作品は、武家の入妻が先妻の子（継子）に不倫の恋をしかけるといって極めて異色な題材の歌舞伎狂言として有名です。その衝撃的な題材のためもあり、大歌舞伎では長らく上演されませんでした。明治末頃から採りあげられるようになり、先代歌右衛門も再三演じ、当り役の一つとして、その芸談「魁玉夜話」でも愛着深く語っています。その後継者である現歌右衛門も、二十一歳で初役で演じて以来、現在の歌舞伎界でも屈指の当り役として定評があります。また、その際同じく初役で合邦道心を勤めたのが現仁左衛門でした。親の世代以来この二役を競演してきた両優の芳醇な舞台は、格調高い古典の魅力を満喫させてくれる

《紙子仕立両面鑑》

この作品は、京大阪を舞台に華やかな色恋の雰囲気や人情を濃厚に写し出した芝居として興味深く、東京では昭和二十九年以来三十三年ぶりの上演となるだけに、正に見逃せない舞台となるでしょう。今回は松島屋の家の芸として繰り返しこの芝居を演じている仁左衛門が、自身のライフワークを完成する意気込みで、助右衛門役を勤めます。上方ならではの独特の匂いや懐しい情感の醸し出される芝居が展開されるにちがひありません。（あらすじ）



大阪上町の万屋の侍助六は、新町の遊女揚巻に夢中になっています。そこで、悪侍から揚巻の身請けを頼まれた万屋の番頭伝九郎の企んだ悪計にはまった助六は、窮地に立たされた上勘当され、揚巻と二人で困り果てました。そこへ現われた妻のお松に対し、助六は、父の勘当を解いてくれれば揚巻と別れると約束してこの場を去りました。（浮無瀬の場）
実家の大文字屋へ帰されたお松は、

紙解説



銀地布目象嵌水指
秋の譜（昭和53年作）
（1938年）
東京国立近代美術館蔵
法量 高さ 14.5cm
直径 14.0cm

彫金技術の一つに布目象嵌がある。重要無形文化財保持者・鹿島一谷の家系は、四代にわたってこの布目象嵌、彫金の仕事を業としてきた。技法自体は南蛮渡来と伝えられた、古正阿弥承の彫金や肥後鐺等格式高い刀装具の細工に利用された。明治当初の魔刀令で装剣金工が姿を消し始める中、装身具、美術工芸品の製作に転用されている。一谷の祖父が布目象嵌で一世を風靡した明治の末では、簪、笄等女性の髪飾や男物の煙管、そのほか、煙草入、紙入、蓋口、手提など袋物の留金具、帯留の仕事が繁盛した。祖父没後の大正末頃では、これは当時の富豪の婦人達の間で、月毎に帯留を取り替える趣味があった風潮にもよう。布目象嵌の段取りとしては、まず地金の表を薄刃の鑿で微細に刻み、切り目を付ける。次に金、銀や鉛の薄い板金をその鋭いさざぎの上からびつたりと張り付けて仕上げるものである。ここでは、本象嵌のような、紋金を素地に嵌め込むというイメージが殆ど当たらない。作品の水指では、秋草の葉部、昆虫がこの方法で銀地に表されている。また象嵌名の由来も、その布目様に刻まれた目切りによるもので、何れにせよ、紋金の量は少なくして済む。経済的な観点から言えば、金、銀が高値で、手間賃の安い時分によく流行った細工法である。技法の中心地は東京、京都、熊本にあって、特に東京辺りでは赤銅や俗に言う四分一を素地とし、京・熊本では鉄地を主材にしている。作者の布目の特色の一つに、図柄に墨絵風の印象や遠近感効果の与える、「研出し象嵌」がある。これは桐炭等で紋金のの上を丹念に擦り上げて、地金の色合いを浮立させ、意匠に濃淡を加える技法である。どことなく江戸風で、淡々とした作者の手柄を作品へ託すには又とない手法だと言える。（文化庁伝統文化課文化財調査官 大滝幹夫）

編集後記

記録的な暑さの夏が過ぎ、いつの間にか燈火親しむ候となり、芸術の秋、スポーツの秋そして食欲の秋を迎えました。十月一日からは芸術祭及び協賛公演が、十月二日からは熊本で国民文化祭がそれぞれ始まり、どちらも盛り沢山のメニューです。ごぞつてご参加ください。特集では、新人類と言われている若者への文化に対する対応と多様な態度を取り上げました。現代日本の青少年の動向が窺えるでしょうか。『ぶんかアंक』では、大崎長官の訪欧報告の二回目で、英国及び仏国の映画振興策について報告いただきました。都道府県のページで御紹介しています。我が県の文化行政シリーズも七回となりました。我が県の文化政策を是非との自薦をお待ちしています。（K）

広告の問合せ・申込み先
株式会社 きょうせい 営業課
TEL(0)三二六八二二四一(代表)

「文化庁月報」十月号
昭和62年10月25日印刷・発行
編集 文化庁
〒100 東京都千代田区有明3丁目2番2号
発行所 株式会社 きょうせい
本社 東京都中央区新富7丁目4番12号
営業所 東京都港区新富4丁目52番地
電話 (0)三二六八二二四一(代表)
振替口座 東京 九一一六一番
印刷所 特行政学会印刷所

年間購読料 一八〇円(送料四五百円)
二、一六〇円(送料共)